

## いのり杉

清水寺の境内には恐怖スポットとしてアナザーエリアがあります

境内の一角に縁結びの神として有名な「地主神社」があります。この中にどんな願い事でもひとつだけかなえてくれるという一願聖壽の神様「おかげ明神」があり、その裏側に問題の杉の木「いのり杉」があるのです。この杉の木が、わら人形を打ち付けて憎い相手を呪うという「丑の時参り」に実際に使われたという杉の木です。現にこの木には五寸釘を打ち込んだと思われる穴が複数あります。



### {藁人形}

わらにんぎょうは藁を束ね編み人間の形に作った人形です。わら人形を使う習慣は日本では平安時代に疫病が流行った際に病魔を駆逐するために、この藁人形が道ばたに立てられたといわれています。また畑を荒らす害虫や動物に対してや、戦などにおいて、的を攪乱するために用いられた様です。

### {丑の時参りとは}

昔は祈願成就のため丑の刻に神仏に参拝をしていましたが、後に呪詛する行為として広まりました。丑の刻とは午前1時から午前3時を指します。この時刻は“草木も眠る”と形容され、この時間帯に神仏の御神木に藁人形を釘で打ち込むというのが“丑の時参り”です。姿勢としては白装束に身をかため頭にはロウソクを立てるための五徳をのせ、藁人形、五寸釘、金槌、ロウソクをもってゆきます。



(阿部会員)